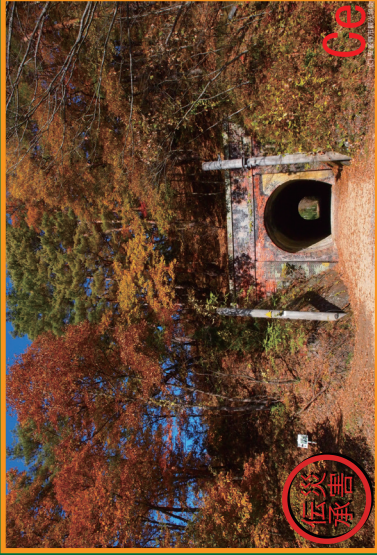


Sc/Ls

旧国鉄篠ノ井線廃線敷



Ver.1(2020/2/1)

災害伝承 DATA

所在地：長野県安曇野市明科東川手 1423-2

緯度・経度：北緯 36 度 21 分 54.4 秒

東経 137 度 56 分 5.4 秒

伝承形式：土木構造物・工事

種類 / 要因：斜面崩壊・がけ崩れ / 地すべり

災害発生：1902 年（明治 35 年）～

1945 年（昭和 20 年）

建立時期：1902 年（明治 35 年）6 月 15 日

指定等：なし

周辺地形：山地・台地・溪谷



観光情報はこちら

言い伝え・伝説

旧篠ノ井線は県内有数の地すべり多発地帯で、1924 年（大正 13 年）には、列車が土砂に乗り上げて脱線するという惨事も発生しました。地すべり対策として、国初の鉄道防備林を築き、地すべり対策工として、石積み水路や井戸も設置されています。

周辺案内

平成 18 年にボランティア組織「ケヤキの道」が発足し廃線整備を行い、閉鎖していた 2 本のトンネルも開通しました。歩道や駐車場・トイレを設置し、ケヤキの森の中のトレッキングコースとしてよみがえりました。当時の信号機やレンガ造りのトンネルなど、蒸気機関車が走っていた頃の面影が残っています。